

◆ 台東都税事務所長賞 ◆

「税の人生」

台東区立上野中学校 1年 山下 朔民

税について考えた時、僕にとって身近なのは消費税だ。

百円の消しゴムを買うためにお財布から百十円を取り出した時にふと思った。今払おうとしている十円の消費税、この小さな消費税の行き先は?どんな使い道があるのだろうか? たった十円かもしれないけど、僕にとっては貴重な十円だ。税金として納めるからには、大切に使ってもらいたいものだ。そんな風に考えていたら、なんだか、この十円に愛着が湧いてくる。しかし十円と僕は税金と納税者の関係。レジが近づくに程に、別れの時が近づいていく。僕は心の中で別れを告げた。「僕の十円よ、これから税として頑張れ!そしてさよなら、元気で!」……こうして、レジの音と共に税くんが誕生した。

ボクは税くん。みんなが一生懸命働いて納めてくれたおかげで生まれた税だ。これからボクの人生のスタートだ。人ではないけれど。さあ、ボクはどんな使われ方をするのだろうか。税として生まれたからには、やっぱり人の役に立ちたい。例えば、病気やケガで病院に行った時の医療費になるのはどうだろう。人は、弱っている時は助けが必要だ。救急の場で大活躍しているドクターヘリも、税金で運用しているらしい。そのおかげで救われた命がどれだけあるだろう。他には、お年寄りのための介護や年金にもなれたら嬉しい。長年納税していてよかったと思ってもらいたいものだ。警察や消防など、暮らしに欠かせない活動のためになるのもカッコいいかもしれない。

ボクの夢は広がるばかり。どのような使われ方をするか決める、国や地方自治体の審議が待ち遠しい。そして、審議が終わり、ボクの使い道が決定した。ボクはマスクの調達に使われた。この税の使われ方を「税金の無駄づかい。」と批判する人もいた。ボクは悲しかった。「もっと喜ばれる使われ方をしたかった。」……そう叫び、税くんの人生が終わった。

僕は今、税くんが一生懸命役目を果たしたおかげでこのマスクを使っている。僕はマスクの調達が無駄だったとは思わない。もっと役に立つ使われ方もあったかもしれないが、僕の役に立っている。税くんの人生は税として立派だった。僕はそう言い切れる。「ありがとう税くん。よく頑張った税くん。」そう感謝した。そして、税くんの人生から気づいたことがある。先ほど「役に立つ」という言葉をたくさん使ったが、税として役に立つ使われ方とはなんなのかという疑問を持った。この疑問に対して考えていると、税とは何のためにあるのかというところまで辿り着いてしまった。税は人々の安全な生活やより良い暮らしのためにあると僕は考える。だから、役に立つ使われ方から考えるのではなく、人々を安心させ暮らしを支えた税こそが「役に立つ」だったのだと税くん人生から気づいた。僕はもう一度心の中で税くんにお礼では表せないほど感謝した。